

令和4年度 あやの台保育園事業報告

1. 概要

①運営報告

- 2歳児クラスの入園希望者が多いことから令和4年4月より併設のあやの台幼稚園で満3歳児クラスとして2歳児、6名の受け入れを実施しました。当園2歳児クラスとの連携や交流を図り、保育を進めました。3歳児に進級の際には2号認定を希望される方も多く、あやの台幼稚園の1号認定での受け入れで対応するなど、今後も2園での連携が必要と考えます。
- 年度末の退職者は3名（保育士1名、看護師1名、保育補助1名）でした。保育士は新卒1名、スカウト会社より1名採用し、3月より研修を実施、看護師1名はハローワークより紹介採用し、1月より勤務し引継ぎを行い、新年度の業務に支障のないよう対応しました。現在就業中の若手保育者のリーダー起用などで意識の向上を図りました。パート職員の研修充実によるスキルアップなどにも取り組み、子育て中の職員も就労しやすい環境づくりに努め、離職率の低下にもつながりました。
- 新型コロナウイルス感染症関連事業等で備品購入や感染症対策手当の支給を行いました。
- 処遇改善臨時特例を支給し、職員のモチベーションアップにつなげました。
- 経年劣化の見られる園内外（床、壁、屋根、設備機器）等の補修、入れ替えについては次年度以降の大型修繕を検討しています。

②定員 110名 合計124名（定数外14名）

③事業日数 294日（日・祝日及び12月29日～1月3日は休園とします）

④開園時間 平日 7:00～19:00
土曜日 7:00～18:00

⑤保育時間

平日	早朝保育	7:00～8:30	土曜日	早朝保育	7:00～8:30
	保育短時間	8:30～16:30		保育短時間	8:30～16:30
	保育標準時間	7:00～18:00		保育標準時間	7:00～18:00
	延長保育	18:00～19:00			

⑥職員数

園長1名、主任保育士1名、看護師3名、保育士26名（うちパート保育士14名）
保育補助2名、栄養士1名、調理員4名、その他6名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私達は、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 子ども達がいきいきと生活、活動できる環境を整える
- 自分らしく生き抜いていく土台を培う
- 立腰保育・教育で心と体を整える

③保育目標

- 友だちと助けあえる子
- 心身ともに健康な子
- 失敗を恐れず、色んなことにチャレンジできる子
- 優しさや思いやりのある子
- 腰骨を立てる 躰の三原則（挨拶は自分から先にします、返事はハイとはっきりします、履物を揃え椅子は入れます）

④クラス体制

0歳児	10名	保育士	3名
1歳児	18名	保育士	5名（1歳児加配2名）
2歳児	24名	保育士	4名
3歳児	24名	保育士	2名（加配1名）
4歳児	24名	保育士	1名
5歳児	24名	保育士	1名
合計園児数	124名	保育士・看護師	16名

園長	1名
主任保育士	1名
延長保育担当保育士	2名（パート保育士2名）
一時預かり事業（一般型）	1名
地域子育て支援拠点事業	3名（うちパート保育士等2名）
病後児保育事業	1名（看護師）※
発達支援事業	2名
医療的ケア加配	1名（看護師）
アレルギー等対応	1名

⑤保育内容

保育理念・方針・目標に沿った全体の計画を基に、よりよい環境を整え、心身ともにたくましく健康で、人間性豊かな子どもを育てるために下記のことを行いました。

- 教育哲学者 森信三先生提唱の「腰骨を立てる」(立腰教育)を基に、「挨拶は自分から先にしよう」「返事はハイとはっきりしよう」「履物を揃え、イスをいれよう」の躰の三原則は習慣化するように保育者が見本となり継続して実践しました。
- 乳児クラスはゆるやかな担当制で保育を行ってきました。ふれあいや運動遊びも毎朝継続していますが内容がマンネリ化しているため、次年度は遊び方や環境の充実が課題です。
- 定着した朝の運動遊びでは更なる体力づくりや、「感覚統合」の考え方を意識し活動しました。近隣の環境(遊歩道やあやの台中央公園など)を活用して子ども達がしっかり体を動かせるように工夫しました。夕方も園庭やホールで遊ぶなどの時間も作り楽しんで体を使った遊びができるように努めました。クラスによってはばらつきも見られたので、連携を取りながら進める必要があります。
- 造形(絵画)活動は喜んで参加し、作品を掲示することで子ども同士の表現を話したり、共感したりする姿も多くみられました。また保護者の方にも共有していただく機会となりました。
- 給食室との連携を積極的に深め、年間食育計画に基づき食育活動に取り組みます。あやの台テラスにてさつまいもをはじめ野菜栽培や収穫、クッキング活動、家庭への情報発信(おたより、掲示)など啓蒙活動を継続して行いました。また芋ほりでは法人姉妹園との交流にもつながりました。
親子クッキングは時節柄実施できませんでした。
- 絵本や全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」を使って人権年間計画を作成し年間を通じて人権保育に取り組みましたが、感じ方にばらつきも見られましたので、教材選択や実施時期などの工夫も必要と考えます。
また現在近隣の小学校で取り組まれている「E S D」(持続可能な社会開発のための教育)への取り組みは職員の研修が今後の課題です。
- あやの台テラスや近隣の公園等で自然あそびを実施しました。今後も五感を働かせ想像力を育んだり、地域の人と触れ合ったり自然を大切に思う気持ちが育つように続けていきます。以前利用していた橋本市郷土の森学習体験棟「ひだまりの郷」や「矢倉脇」での森あそび、竹切り体験などは時節柄実施できませんでした。
- 日本赤十字社の紙芝居やワークの時間は時節柄実施できませんでした。次年度に向けて計画していきます。

⑥家庭との連携

- 年度初めのクラス懇談会において、保育理念、目標、保育内容(育みたい資質・能力)、立腰教育、基本的な生活習慣の重要性についてレジュメやおたよりを作成して内容を保護者に伝えました。年2回の個人懇談、保育参加を通してクラス運営や職員の関わりなどを知っていただく機会としました。また保育参加後のアンケートも実施し、日々の保育や園運営に反映させま

した。

- 日々の送迎時には、一日の子どもの様子を伝えたり、保護者の思いを聞き入れたり丁寧に対応するよう心掛けました。
- ホームページのブログは毎日更新し、その他おたより、掲示物やメール配信などリアルタイムの情報発信を行いました。現在利用しているメール配信システムが次年度で終了となるため、よりよい情報発信が行えるシステムの検討を行っています。
- 保護者に向けた催しや親子で一緒に遊び体験できるイベントや講座の開催は時節柄、見送りました。

⑦人材育成

- 個別の研修計画を基に法人内研修や外部の研修会にも積極的に参加しました。
特にキャリアアップ研修については対象職員の受講を優先的に進めました。
また非常勤職員は勤務時間等が異なるため、園内研修では日にちや時間を分ける等を工夫し参加できるようにしました。
- 立腰教育については園内研修をグループに分け実践形式により実施しました。
- 研修計画に基づき、看護師による保健研修を月1回行いました。実技研修（救命救急・S I D S・感染症対応・アレルギー対応・災害時の対応・運動・リトミック・音楽・歌唱・絵画など）も積極的に行いました。
- 「橋本市私立園会」などでの研修会の実施（年1回）、5歳児の交流運動会を橋本県立体育館にて行いました。
- 園内の知りえた情報は速やかに園長、主任保育士に報告・連絡・相談を徹底し、その都度や昼礼、職員会議棟で全職員が共有できる体制づくりに努めました。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援拠点事業「ポトフのおなべ」

- 市の広報誌の地域子育て支援センター欄や当園のホームページやメールにて、子育て支援センターの日程や子育て情報なども配信し、多くの地域の方が利用できるよう積極的な広報を行いました。来園親子数は1,414組の2,957名でした。
- ルーム開放（1,045名）や親子登園（391名）、園庭開放（216名）、地域への出張保育（784名）、月毎の子育ての集い（339名）、おはなし広場（80名）などをさらに多くの地域の方に利用して頂けるように内容の充実を図りました。また、地域のサークルの支援（35名）にも積極的に関わるようにしました。
- 市の保健師と栄養士による離乳食等の相談（年3回）、歯科衛生士の相談（年2回）の機会を連携を図りながら実施しました。
- 市の保健師や家庭児童相談員、地域の自治会、民生委員、人権擁護委員と連携を図り、保護者や子どもの支援や交流を行いました。特に要対協の家庭の支援や情報共有は市内外の関係機関と密に行いました。その他、発達相談や就学相談など保護者の思いも聞き、一緒に考える姿勢

で対応しました。

- 地域にある「あやの台ハウス」や「集会所」を有効活用し、ほっとできる環境の提供やさらに良い親子の交流、相談ができるようにしました。(妊婦、0、1歳の親子など)
- 地域の子育て家庭を対象に幼稚園と合同の説明会や体験保育を行い、親子のふれあい遊びや絵本紹介などのコーナーの充実、給食、おやつのレシピ等の情報提供を行い、園に興味関心を持ってもらえるように工夫しました。
- 橋本市家庭教育支援チーム（ヘスティア）へ依頼し、講座やワークショップの開催を行いました。
- 橋本市の子育て支援関係者交流会や研修会に担当者が参加し情報交換や専門性の向上に努めました。

その他の事業

- 病後児保育室については、年間5名の利用でした。年度初めには市内の園長会にて資料を配布し説明するなど広報にも努めました。
- 中学生25名の家庭科授業の体験学習の受け入れを行いました。
また保育実習は短期大学の学生7名を受け入れました。
- 地域の幼保小中高校との交流や職員の情報交換を行いました。また中学校区の教育関係者や地域の方と毎月のミーティングを行いました。例年通りとはいきませんが共育コミュニティ活動（リサイクル活動として古着を難民キャンプに届ける“服のカプロジェクト”、ワクチン提供につながる“エコキャップ集め”）を継続して行いました。
- 就学前には5歳児の保護者向けに小学校校長より話をしてもらう機会は時節柄実施できませんでした。
- 毎月の市の移動図書館（ブッキー号）の来園時に、園児や地域の方にも貸し出し図書の利用ができるようにするとともに、子育て支援担当による「おはなし広場」で絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、在園児や地域の子育て親子の絵本に触れる機会を多く持つてもらえるようにしました。
- 同地域内の小学校の学童保育利用の児童との遊び等の交流は次年度に再開予定です。

⑨苦情処理

- 苦情解決窓口（苦情受付担当者を松山利加、解決責任者を武藤廣茂とします）、第三者委員（2名）の設置を掲示等で保護者に知らせました。
- 保護者からの苦情はありませんでした。引き続きご意見BOXを設置し、頂いた保護者からの意見・要望については検討し、おおむね24時間以内に回答します。対応に時間を要する内容については、途中経過を掲示板等で知らせます。

⑩リスクマネジメント

- 危機管理マニュアル内のバスの安全管理について3.4.5歳児園児全員と職員に訓練、研修を3

日に分けて実施しました。

- 事故防止のために園内にビデオを設置（4か所）し、マニュアルを整備し、園内研修（SIDS、救急救命等）を行い、職員の安全に対する意識向上の機会にしました。園内・園外の危険マップについての見直しと合わせてヒヤリハットを活用し、同じ事故や怪我などが続かないように職員の立ち位置や環境構成を見直しました。
- 施設内外の設備、用具等の清掃、消毒・点検を毎日行い、看護師が担当者として衛生管理に努めました。（玩具や絵本などは除菌ボックスを使用し消毒）
- 消防と連携して年2回の総合訓練や消防点検を実施しました。年1回の不審者対応は感染症発症のタイミングと重なり、実施できませんでした。次年度早々に対応します。
非常用の備蓄品は3日分（アレルギー用も備蓄）、厨房が使用できない場合等は、委託業者の連携先のUサービスで対応できるように確認しました。
- 新型コロナウイルス感染症をはじめ感染症発症や不審者などの情報については、リアルタイムなメール配信と掲示により保護者に伝え、市、関係機関とも連携し対応しました。

⑪設備の改善及び物品購入について

- ・床、壁（クロス）、屋根等の塗り替えや補修は大規模修繕にて対応予定